

日本呼吸器学会感染症・結核学術部会

COVID-19 診療に関するアンケート調査結果報告書

2021 年 3 月 16 日作成

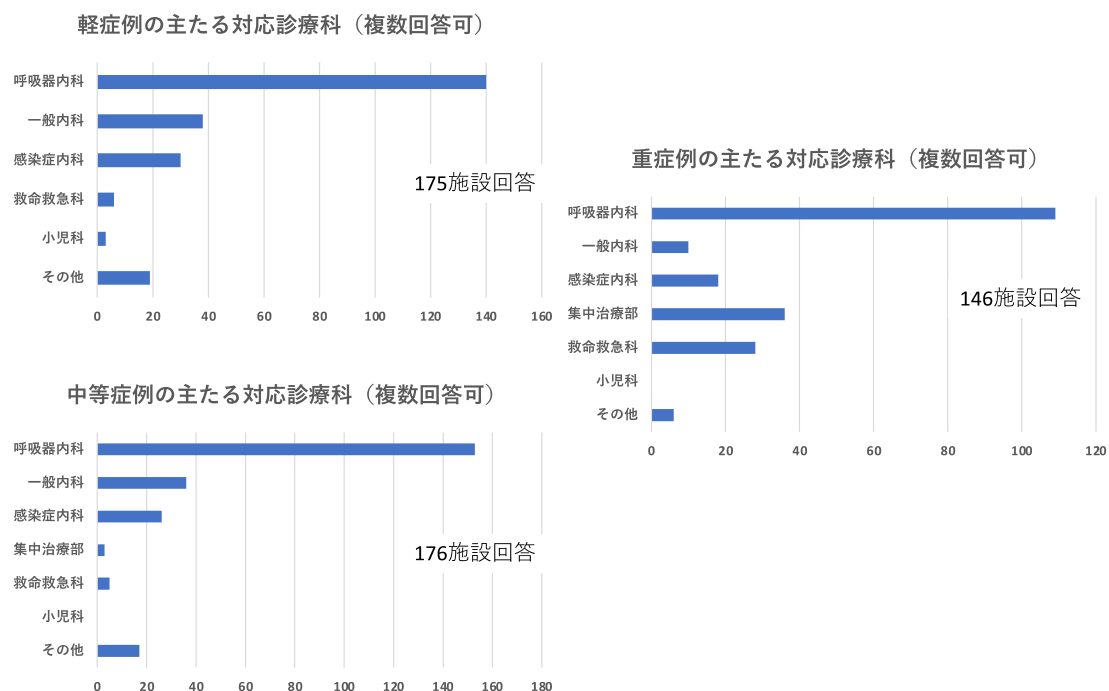
- ・ 回答期間：2021 年 1 月 28 日～2 月 28 日
- ・ アンケート対象症例：2021 年 1 月 27 日までの症例

日本呼吸器学会の基幹施設・連携施設に対して、日本呼吸器学会感染症・結核学術部会よりアンケートをお願いさせて頂きました。215 件の回答を頂きましたが、重複、無効を除く 198 施設からのご回答に関しまして解析を実施いたしました。先生方に於かれましては、お忙しい中アンケート調査にご協力いただきまして、誠に有難うございました。

経験症例数：重症 1,664 例、中等症：10,047 症例
(厚生労働省 COVID-19 診療の手引に準ずる)

1. COVID-19 を主に対応されている診療科はどこでしょうか？（複数回答可）

COVID-19対応の主たる診療科は？



上記の様に、日本において COVID-19 症例に対応しているには呼吸器学会員の先生方が中心であるということがわかります。特に軽症、中等症においては呼吸器内科が主体という結果でした。重症例においては、集中治療部や救命救急科の比率が上昇していました。

※本アンケートは呼吸器内科医を対象に実施していますので、バイアスがかかった結果であることにはご注意ください。

2. COVID-19 入院時にエンピリックに抗菌薬を併用しますか？

198 施設からの回答で、する 13%、重症例ではする 38%、しない 49%という結果でした。投与する場合の平均投与日数は 6.389 日（回答 119 施設）。使用抗菌薬の種別としては、ペニシリン系が最も多く、次いでセフェム、マクロライド、キノロン系の順の回答でした。

3. 二次性感染症

COVID-19 associated pulmonary aspergillosis に関しては、10 例の合併（うち死亡 5 例）、肺結核の合併に関しては、3 例（うち死亡 1 例）がありました。

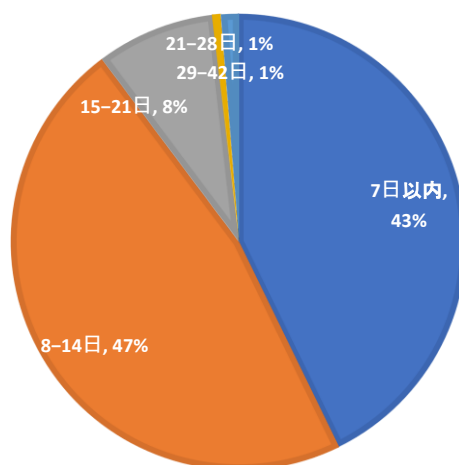
市中肺炎の合併：336 例、VAP を除く院内肺炎：403 例、VAP252 例、菌血症 116 例と一般細菌感染症の合併についても報告がありましたが、数としては限られていました。肺炎の

分離菌の数としては、肺炎球菌 29、クレブシエラ 23、緑膿菌 25、黄色ブドウ球菌 33 例でした。菌血症としては、黄色ブドウ球菌が大半を占めていました。

4. 酸素投与日数、LTOT について

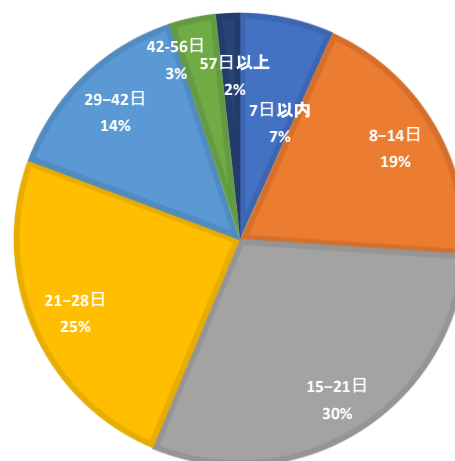
中等症例への酸素投与日数は？

166施設回答



重症例への酸素投与日数は？

119施設回答

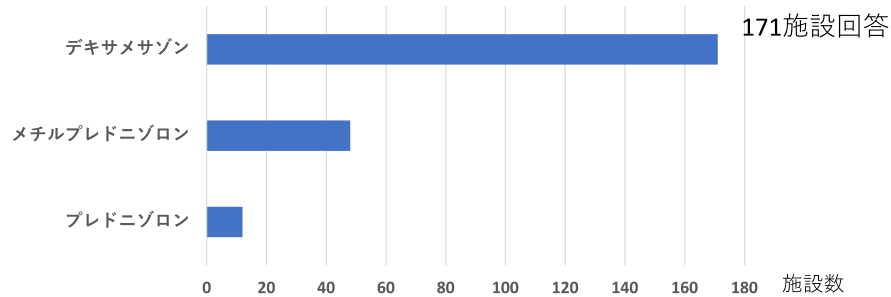


LTOT導入症例は？ 144例（55施設）
そのうち、フォロー中にLTOTを離脱できた症例は？ 41例（28.5%）

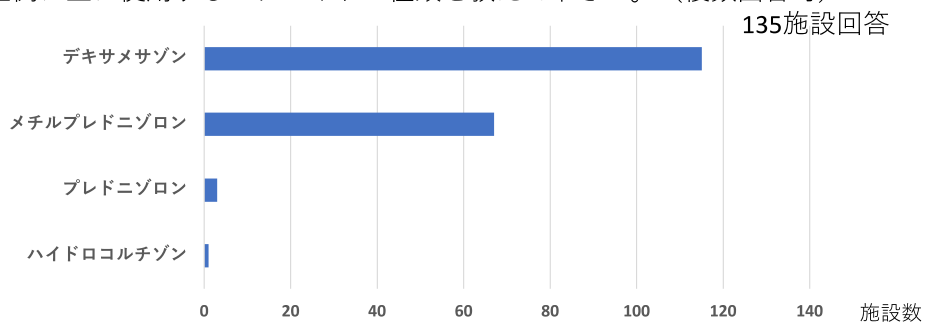
重症例での酸素投与期間がやはり長く、長期酸素療法（LTOT）導入例が 144 例（55 施設）から報告がございました。離脱できた症例は、41 例（28.5%）ということでしたが、第 3 波の終わり頃のアンケート実施であり、その後にさらに離脱できた症例もあった可能性があります。

5. COVID-19 に対するステロイドの使用に関して

中等症例に主に使用するステロイドの種類を教えてください。（複数回答可）

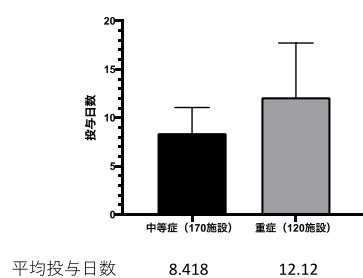


重症例に主に使用するステロイドの種類を教えてください。（複数回答可）



やはり、デキサメサゾンの使用が多いですが、重症例ではメチルプレドニゾロン使用比率が高めでした。

施設毎のステロイド平均投与日数は

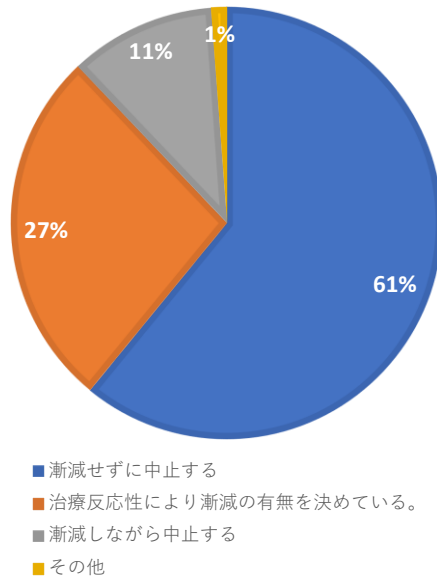


ステロイドの使用期間は、施設間の平均で下記の通りでした。やはり重症例では、投与期間は中等症よりも有意に長いという結果でしたが、施設間の差は大きいという結果でした。

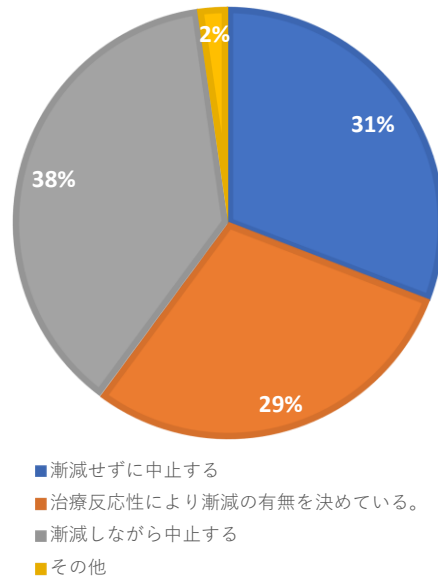
P<0.001 (unpaired t-test)

ステロイドの中止方法は？

中等症（174施設回答）



重症（133施設回答）

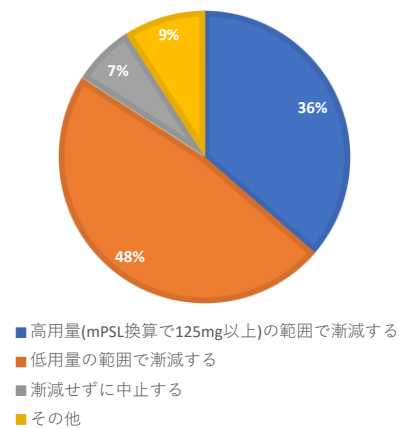


上記の様に、中等症例ではステロイドは漸減せずに中止されている施設が多かったですが、重症例では、ステロイドは慎重に減量、中止されている施設が多いという結果でした。

ステロイドパルス療法

ステロイドパルス療法の経験はありますか？
(184施設回答)

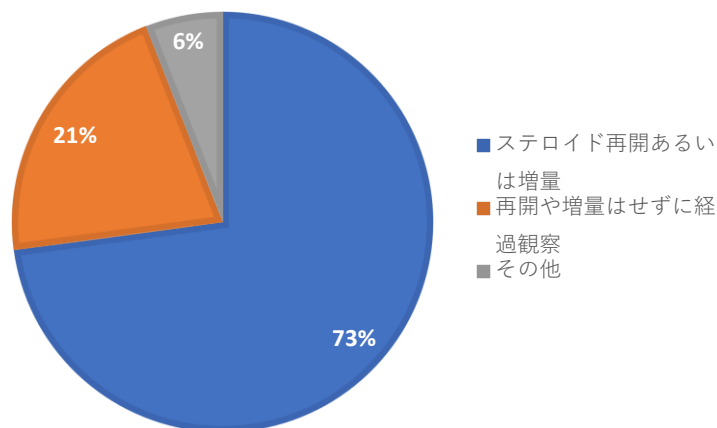
パルス療法後の減量方法は？
(184施設回答)



ステロイド中止、あるいは漸減後に再燃する症例は
おおよそ何%にみられますか？

平均8.01% (166施設回答)

その際の対応方法について教えてください。



ステロイド中止、あるいは漸減後に再燃する症例は、8.01%という結果でした。（施設間の回答の平均であることにご留意ください。）その対応としては、大半の施設がステロイド再開、あるいは増量で対応されているようです。その他の回答としては、「症例の状態により判断している」、「数日経過をみて判断している」などでした。

6. COVID-19 外来治療の経験はありますか？

172 施設中 7 施設（172 例）で経験があるとの回答でした。医療が逼迫していた地域における施設で止むを得ずに実施されていたものと考えられます。治療内容としては、シクレソニド吸入が 2 施設、カモスタットが 1 施設、対症療法が 4 施設で回答されていました。